

昭和31年(1956年)

# 戦後の校舎改築

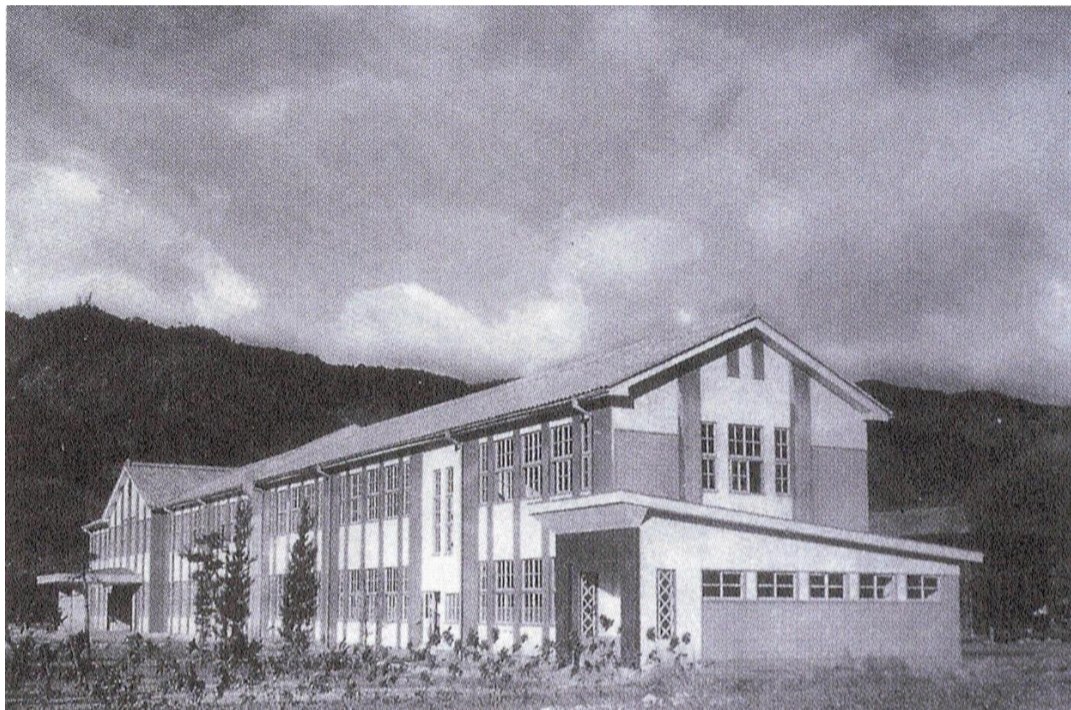
全四期にわたる大工事を終えて、益田高校は生徒・先生の誰もが快適に過ごせる学校に進化しました。

## 特別室を含む十四室の 新校舎完成

昭和25年5月に第一期増築工事が始まり、その後の昭和26年1月に第二期増築工事が始まりました。この第二期工事で、教室3部屋分のスペースを持ち特別閲覧室を備えた図書館ができました。

そして昭和27年に第三期工事が行われた後、新校舎が誕生し落成式が開かれました。その後年月をおいて昭和31年に第四期工事が行われ、益高の改築工事は終了しました。

この改築工事の総費用は当時で452万円と莫大なものであり、子供たちの教育に尽力していた時代であったことが窺い知れます。



## 落成記念芸能祭「白鳥の湖」

昭和27年10月30日、PTAの主催のもとに武藤知事など多数の来賓を迎え、落成式が挙行されます。この日から3日間学校が開放され、戦後第一回の学校祭が開催されます。芸能祭には、女子体操部と舞踏クラブ共同で、バレエ「白鳥の湖」を上演することにしました。出場人員は十八名ですが、振り付けに表現に一生懸命努力しています。

御存知のように、この「白鳥の湖」はチャイコフスキー作曲の古典バレエの代表作ですが、未熟な私達には古典バレエの技法によって踊ることは到底不可能です。レコードにのせて新しく振り付けをするのですが、一番苦心しているところは、三幕目の白雪姫オデッセの踊り、四幕の王子とオデッセの踊り、悪魔口オトバットの踊りです。それぞれの役の性格を表すことは振り付けも大変ですが、それを表現する者自身の苦労も並大抵ではありません。

今まで習得した学校舞踏を基礎に、どの程度こなす事ができるかが問題です。

この地方ではバレエとはどんなものであるかという事を知らない人もあるでしょう。その点、バレエを知っていたり上にも、又、日ごろの私たちの舞踏活動を知っていたり上にも、より大勢の方々に見ていただき、御批判を仰ぎたいと思っています。

皆様のご期待にそえるかどうかは大きな疑問ですが出来るだけの努力をおしまないつもりでいます。

「80周年記念誌」より抜粋

## 当時の益高新聞より

我々の大きな理想と期待とをかけた増築工事が秋風の吹く今日竣工し、その雄姿を町下を見下ろす益高の高台の上に出現させるに至った。この秀麗なる殿堂の正面に金色燦然と輝く校章がまず我々の胸を突き、車止めのついた豪華な玄関は一見近寄りたがたい雰囲気をもたらし出している。異彩を放っているのは我々のセンスの源泉である図書館の存在で、教室3つ分を占有する大きなもので、新しい息吹と勉学へ精進すべきエネルギーを与える要素を一パイはらんでいる。

